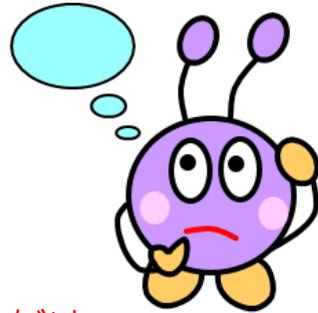


もくペいは<sup>おおよろこ</sup>大喜びで3人<sup>にん</sup>に仕事<sup>しごと</sup>を手伝<sup>てつだ</sup>ってもらって  
います。

ひとりになった<sup>う</sup>いる<sup>すん</sup>は<sup>であ</sup>出会<sup>ひと</sup>った人たちのこと  
を<sup>おも</sup>思<sup>だ</sup>い出します。



<sup>であ</sup>「出会<sup>す</sup>ったみんなは好きなことだけ、

<sup>とくい</sup>得意なことだけをしている。」

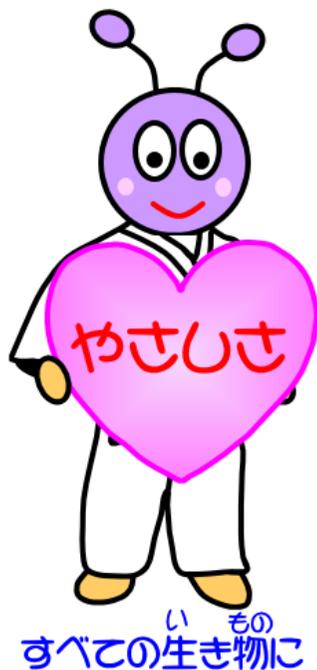


「そうか！<sup>こんしょく</sup>魂職<sup>って</sup>

<sup>ず</sup>“好き”<sup>つつ</sup>をやり続けることなんだ！」

「ういるすん！みんなのおかげですばらしいものが

できあ  
出来上がったよ！」



もくペいは<sup>あせ</sup>汗を<sup>ふ</sup>拭きながら<sup>い</sup>言いました。

「<sup>いま</sup>今まで<sup>だれ</sup>誰も<sup>め</sup>目<sup>み</sup>で見たことはないけど

<sup>むかし</sup>みんな<sup>し</sup>昔から知っているものだよ。」



「<sup>つつ</sup>すべてを<sup>こ</sup>包み込む<sup>あい</sup>愛。」

「<sup>せかいじゅう</sup>世界中に<sup>ひろ</sup>広がる<sup>へいわ</sup>平和の<sup>こころ</sup>心。」

「<sup>い</sup>すべての<sup>もの</sup>生き物に<sup>たい</sup>対するやさしさ。」

「<sup>さっそく</sup>さあ！早速<sup>まち</sup>街へ<sup>とど</sup>届けよう！」

“ロボットたちが<sup>ぜんじどううんてん</sup>全自動運転の<sup>くるま</sup>車で<sup>はこ</sup>運ぶのかな？”

ういる<sup>おも</sup>すんがそう思っていると、そこにトラックに<sup>の</sup>乗った<sup>あら</sup>ゆゆくんが現れました。



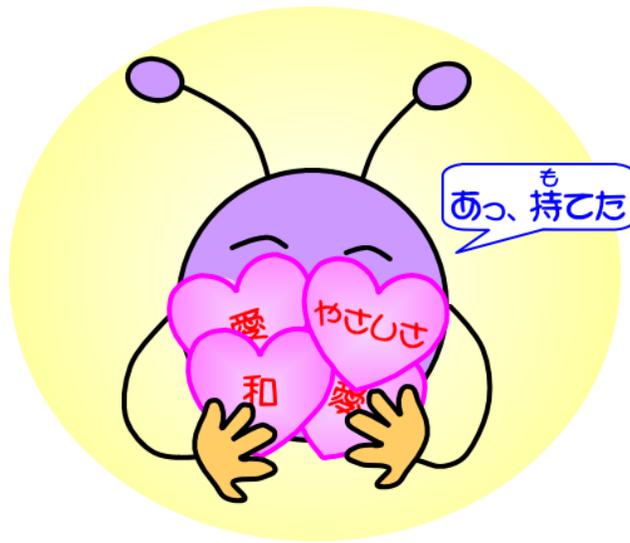
ゆゆくんは「<sup>あい</sup>愛」「<sup>わ</sup>和」「<sup>やさしさ</sup>やさしさ」を<sup>ていねい</sup>丁寧にトラックに  
の<sup>まち</sup>載せて<sup>む</sup>街へ<sup>い</sup>向かって行きました。

もくペいは<sup>い</sup>言いました。

「<sup>つく</sup>ぼくたちが作ったこれらすべてのものは、

<sup>にんげん</sup>人間じゃないと<sup>はこ</sup>運ぶことができないんだ。」

「<sup>こころ</sup>心のエネルギーで<sup>つつ</sup>包み込んで<sup>こ</sup>丁寧に<sup>ていねい</sup>運ぶんだよ。」



こんしよく  
魂職 その8

ゆ ゆ うんそうぎょう うんてんしゅ つうしん  
輸瑜 = 運送業、タクシー、運転手、通信